

事業効果

尺治川溪流保全工

事業名	大項目 (事業共通)	小項目	効果の指標等	具体的な効果等 (地域の状況等)	受益者
砂防事業	費用便益分析				
	安全・安心	○土砂災害による被害の軽減 ・人命、財産	○費用便益比	○B / C = 1.6 (事業効果費〔想定氾濫区域内施設の保全〕B = 2,925百万円) / (全体事業費〔溪流保全工 980m〕C = 1,820百万円) (想定被害額は、治水経済調査要綱等に基づき、人命、一般資産、農産物、営業停止損失、公共土木施設等について算定)	想定被害区域 内住民
	定性的評価等				
	安全・安心	○土砂災害による被害の軽減	○想定被害区域内家屋等 ○想定氾濫区域内の重要な施設	○家屋数 約 28戸 ○農地 約 0.05ha ○主要施設：小学校 ○災害弱者施設：なし ○交通網、ライフライン等：市道	想定被害区域 内住民 想定被害区域 内住民、児童 、通行人等
快適性 (生活環境)	○景観 ○親水空間の確保		○護岸工の設置により、溪岸の侵食防止を図り新たな山腹崩壊を防ぐことができるため現在の宅地に隣接する樹林を保全できる。 護岸工は、できる限り自然石を用い周辺の景観に調和するよう配慮しているため影響は少ないと考えられる。 ○溪流の現況は竹が密生した状況で人の立入りが困難であるが、溪流沿いの管理用通路を散策道として利用できるようになる。また、緩傾斜護岸等の施工により、容易に水に触れることが出来るため、新たな親水空間として利用できる。	周辺住民等 マイキング客等	
環境 (自然環境)	○生態系への影響		○護岸工の施工により、溪岸の浸食が防止される。 ○溪岸に石積工やブロック積工を施工するため、現在の溪岸状態が変わる。 ↓ ・河道内に石材を配置することにより自然に土砂が堆積し、水みちが形成されることや一部護岸工を間隙の大きな石積みで施工するため、年月が経てば草類の回復が期待でき、現在の生態系への影響は少ないと考えられる。	周辺住民等 マイキング客等	